

あかびらの 今と昔

今と昔のあかびらでは、どのように変化をしているのでしょうか。ここでは、昔の懐かしいイベントや風景、建物などを紹介していきます。

平成元年・はまなす国体

先月に引き続き、「平成元年」を振り返ります。

平成元年、最大のニュースは「はまなす国体」でしょう(9月18日〜20日)。赤平市は柔道競技の会場となり、47都道府県から564名の選手と監督、さらに役員や応援団なども加わって大勢の人が赤平を訪れました①。

食事の準備をしたり、折鶴を用意したり、まちを花で飾ったり。市民それぞれが力を出し合っ
て選手たちを歓迎しました。宿泊場所は民泊を活用し、町内会館や個人宅を含め、51もの施設で対応しました。アナウンサーやコンパニオンも市民の応募で選ばれ、STVのアナウンス講習を受けるなど、万全の準備を整えました②。オリンピックの聖火にあたる国体の炬火リレーでは、小中学生を含む市民70名が、平岸から共和までの11区間を走りました③。

柔道競技は少年男子の部で北海道が2位となるなど、選手の皆さんも健闘されました。

平成元年、その他のニュースも。7月14日は共和町と住吉町を結ぶ新成大橋の着工式が行われ、住吉方面へのアクセスが便

利になりました。12月には赤平山スキー場に高速ペアリフトを設置。全長1,023メートル。山のふもとから直接頂上へ上がるようになりました④。
この翌年、平成2年は赤平開基百年の年。国体を終え、百年記念行事や新しいまちづくりに向けて力強く動いた平成の始まりでした。

開会式①



アナウンサー
特訓中②



炬火リレー③



ヘリも飛ぶ!
リフト工事中④

「あかびらの今と昔」は今月で最終回となります。

地域おこし協力隊通信

3月31日まで赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設で、私が企画した「掘り出された石炭のゆくえ展～掘ってから使われるまでの流れを追え!～」を開催しました。私にとって人生初めての企画展でした。

制作するときに資料が少なく、まとめるのに苦労しましたが、開催中に多くの方々に見に来ていただき、苦労が吹き飛びました。「赤平の炭鉱から採掘した石炭の輸送や消費についてのストーリーがよくわかる」、「展示模型がリアル」といった感想をいただきました。

これからもガイダンス施設で魅力的な企画展を催していきますので、ご期待ください。ありがとうございました!

地域おこし協力隊 大藤



炭鉱マンのコスプレをしたお客様にも来ていただきました。